

※トールペイント…木材など紙以外のさまざまな物に絵を描くこと。

- ① 「ユニバーサルペイント」を、リード（第一段落。横書きの部分）の中の言葉を使って説明してみましょう。

身体に障害のある人や高齢者でも絵を楽しむため、握力がなくても自助具などを使って書く技法。

- ② 言語、能力の違いや障がいの有無などにかかわらず利用することができる、物や施設などのつくりを「○○○○○○デザイン」といいます。○○○○○○にあてはまる言葉を入れましょう。

ユニバーサル

- ③ 多くの人にとっては普通に使えても、ある条件の人にはうまく使うことができない、身近な物や場所はありませんか？探してみましょう。

「ユニバーサルペイント」普及活動進める

別府市で障害のある人にトールペイントを教えている三浦ゆかりさん(51)＝大分市＝が、身体に障害のある人や高齢者でも絵を楽しむ「ユニバーサルペイント」を考案し、広める活動を始めた。握力がなくても自助具などを使って絵を描く技法で、長年の指導活動を通して障害のある人と試行錯誤しながら編み出した。より多くの人に伝えるため、指導者を育てる講座や福祉施設などでリハビリ絵画教室などに取り組む。



ユニバーサルペイントの技法で制作した作品を手に笑顔を見せる三浦ゆかりさん



握力がなくても自助具などを使って手にした筆で絵を描くことができる＝三浦さん提供

ユニバーサルペイントは、トールペイントの技法をアレンジしたもの。制作スペース、機の大きさや高さ、自助具の加工など制作環境を整えることもテクニックの一つとして

三浦ゆかりさん 自助具や技法考案

先動きが必要となる、ひねる動作が困難な場合、自助具などを使って手にした筆を持ち上げたり、左右に払うなどして、ひねらず描ける方法を考案した。こ

三浦さんは「絵は無理だと思つていた人でも楽しめる。作品を販売したり、覚えた描き方を指導する可能性もある。私にできることを精いっぱいお手伝えたい」と話している。

(小石朋世)

握力がなくても
描きやすくなる

例えばトールペイントでは、筆をひねって線の細さやしなやかさを表現する技法がある。指

三浦さんは「センターで培ったノウハウをより多くの人のために生かしたい」と考え、指導者を養成する講座を企画。今年7月、会社を立ち上げた。講座を開いて終わりではなく、受講後の指導場所を確保できるとい

いる別府重度障害者センターのような工夫の積み重ねがユニバーサルペイントの技法を増や師を務めている。これまで障害のある200人以上を指導。中には握力をほとんど失った人もいた。三浦さんは、そのような人でも描きやすい技法を編み出すことに意欲的に取り組んできた。

(2016年9月16日付朝刊別府面)

昇降口の段差、お金を取り出しにくい自動販売機…たくさんあります。人の意識の中に「心のバリア」もあるかもしれません。